



第98回

今回は、完成させたばかりの「ウォーキング・マップ Vol.6」に描いてある南郷地区のコースを、市民記者がウォーキング・マップづくり専門委員と一緒に歩いて取材しました。

問い合わせ先 健康課 ☎(36)1187

南郷を巡り会話も弾む

健康にもいい 周遊コース



マップ片手に 南郷を歩く

2月5日、南郷コミセンを午後1時に出発。最終校正を終えたばかりの「ウォーキングマップ」の試し刷りを手に、「許斐山（このみやま）周遊

コース」を歩くことにしました。

案内役は、南郷コミュニティ運営協議会のウォーキング・マップづくり専門委員・八田征勝（まさかつ）さん、花田光稔（あきとし）さん、山下智代子さんの3人で

案内役の八田さんが「県指定の天然記念物で、南郷のパワースポットと言われている」と説明してくれました。ちなみに、クスノキは「楠」とも書

会話を楽しみながら まずは八幡神社へ

光岡八幡宮の西側に戻り、許斐山を正面に見て、田んぼ道を話しながら歩きます。花田さんは、徒歩で日本一周をしたすごい人でした。



原町を歩けば昔の宗像を感じられる

国道3号光岡交差点に出ました。歩道橋の上からは、宗像のシンボル・四塚連峰や許斐山など、360度の展望が開けます。



見付けたら幸運に恵まれるというハートの「つくばい」

保健師からの一言

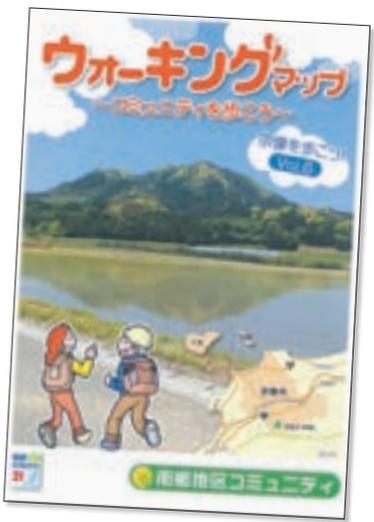
手軽な健康づくり ウォーキング



濱田保健師

身近な場所を散策しながら健康づくりをしませんか。市では、コミュニティ運営協議会などの協力を得て、地域の「ウォーキングマップ」を作成しています。昨年度は、南郷地区コミュニティ運営協議会がウォーキング・マップづくり専門委員会を立ち上げ、約1年がかりで「ウォーキングマップVol.6」を完成させました。南郷地区の見どころスポットの検討や現地調査を通して、ウォーキング・マップづくり専門委員のみなさんの郷土愛を感じました。宗像ユリックス・アクアドームのスタッフにも協力してもらい、歩行距離と所要時間の他に、消費エネルギーやストレッチの方法も掲載しています。ぜひ、マップを活用して健康づくりに役立ててください。

ウォーキングは運動習慣がない人でも気軽に始めることができます。はじめは10分程度の無理のない運動量からはじめ、体が慣れてきたら、歩く時間を増やす、腕を大きく振る、歩幅を大きくするなど、健康づくりに効果的な歩き方も意識してみましょう。



に出ました。ここを渡って300mほど先に「このみ公園」があります。オプショナルルート「許斐山登山コース」の出発点・登山口です。



立派な中津文庭の石碑を見上げます

今日は山には登らず、マップに従って八幡神社へ向かいました。王丸の人家の間からちよつと上った林の中に、熊野神社末社の1つ「八幡神社」がありました。山下さん

次は、「中津文庭（ぶんでい）の碑」を訪ねます。人家の方に降りて約5分、道路脇に、見上げるように大きな石碑がありました。中津文庭は、文政4年（1821年）王丸に生まれた国学者で、書道や詠歌を学びました。明治維新後は、王丸熊野神社の宮司を数十年務める傍ら、家塾「賢木園（けんぼくえん）」を開設、和漢や書を教

す。人家の方に降りて約5分、道路脇に、見上げるように大きな石碑がありました。中津文庭は、文政4年（1821年）王丸に生まれた国学者で、書道や詠歌を学びました。明治維新後は、王丸熊野神社の宮司を数十年務める傍ら、家塾「賢木園（けんぼくえん）」を開設、和漢や書を教

静かな原町の通りは、点々と白壁の民家や土塀が残り、昔の面影をしのばせていました。民家越しに原町が生んだ画家・中村研一・琢二兄弟の「生家美術館」が見えます。

「子どものころよく遊んだ場所です」と懐かしそう。「境内の何処かにあるハート形の蹲（つくばい）洗い鉢」を見つけたら幸運に恵まれるそうですよ」と花田さん。わりと簡単に見付けましたが、在りかは内緒です。

郎は、天保4年（1833年）に王丸の中村家に生まれ、中津文庭の塾で学びました。許斐嶽という「しこ名」は、古里の山から取り、関脇にまで昇進したそうです。江戸時代に、宗像からお相撲さんが出たことを、私は初めて知りました。

さて、この後は、「唐津街道・原町」を通ってコミセンに帰るだけです。唐津街道は、唐津から門司の大里（だいら）を経て、江戸へ向かう西海道の一部で、福岡藩や唐津藩などが参勤交代に利用していた要路でした。太閤秀吉も赤間宿や原町などを通ったそうで、隣

南郷コミセンに帰っていたのは午後3時半。マップに書いてある所要時間84分を、約1時間超過しましたが、取材しながらの道中を考えれば、まあまあと言ったところでしょうか。

みなさんもぜひ、南郷を歩いてみてください。ウォーキングマップは、市健康課や南郷コミセンなどで入手できます。（市民記者・真嶋賢一）

編集後記

ラグビーワールドカップ2019の開催都市に選ばれた福岡。野球やサッカーほどなじみはないが、細かいルールが分からなくても、選手の迫力とチーム一丸となって敵陣へ進む姿には感動！